

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>1 学校運営</p> <p>ア 経営会議、主幹会議を効率的に運営し、教育活動の改善計画をまとめる。</p> <p>イ 生徒の定着を図るため、現行の年次進行による14→10→7→7の学級編成を改定する。</p> <p>ウ 教育課題に対応したPTを組織し、解決案を主幹会議に提言させる。</p>	<p>1 学校運営</p> <p>ア 10項目の改善計画のうち、以下の4項目を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンジの利用時間の拡大（生徒の居場所づくり） ・みのり杯（体育祭）の内容充実 ・自発学習室の整備（キャレルデスクの導入） ・持久走大会（1年次）の実施 また、次の6項目を次年度の継続案件とした。 ・家庭学習の定着の促進 ・評定の基準の再検討 ・教育課程の見直しと再検討 ・資格取得と検定受験の促進 ・ボランティア活動の促進 ・キャリア関連科目の充実と再検討 <p>イ 学級編成を10→10→10→7に変更した。今後、クラス替えを行わないことにより、生徒の人間関係を保ち、出席率の向上や中退率の減少を期待することができる。</p> <p>ウ 学力向上PTを組織し、国・数・英の2～3年次必履修化について検討した。 また募集対策PTを組織し、広域通信制のシステムに関する情報を収集するとともに、広報紙「Minori Journal」の発行やホームページの充実を図った。</p> <p>エ 中退率 7.3%(56人、うち転学者15人)</p>	4
<p>2 学習指導</p> <p>ア 少人数習熟度別指導や誉めて伸ばす指導を基本に、生徒の「自発学習」を促し、学力を伸ばす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。 ○ 毎回の小テストや家庭学習の工夫により、学習習慣を身に付けさせる。 ○ 基礎力診断テスト結果を活用し、個々の生徒の学力の到達度を明らかにして指導に役立てる。 <p>イ 授業の質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業、相互授業見学や授業実践交流会を行い、授業改善に生かす。 ○ ICT機器を使った授業展開に挑戦する（年最低1回）。 ○ 生徒による授業評価を行い、授業改善策を各教員でまとめる。 ○ 生徒・保護者、卒業生が参加した授業評価委員会を開催し、結果を授業改善に生かす。 	<p>2 学習指導</p> <p>ア わかる授業を目標に、個に応じた丁寧な少人数習熟度別指導を実施した。 学校評価アンケートの結果は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力をつけるために、授業以外にも自分なりに学習している。」 Yes…49.9%（前年比－1.2%） ・「授業では教材や教え方を工夫し、熱心に指導している。」 Yes…77.1%（前年比－1.9%） ・「選択科目は、興味や関心を持てる科目である。」 Yes…87.4%（前年比－2.1%） <p>イ 授業の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相互授業見学を励行し、授業実践交流会を1回実施した。教育研究員及び東京教師道場リーダーの模範授業をして授業力向上に努めた。 ○ ICT機器を活用したことにより授業が活性化し、特に数学においては高い成果を実現した。 ○ 英語多読の授業やJETの活用により、英語学習に積極的な生徒が増えた。 ○ 授業評価委員会を3回開催し、生徒や保護者からプラス意見が得られた。 	3

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>3 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育により、進路決定率を向上させる。</p> <p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」につなげる。</p> <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。ベネッセや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。</p>	<p>3 進路指導</p> <p>ア 3月19日現在の進路決定率は、68%。 ○ MARCH 1名、日東駒専 6名 ○ 就職内定者 13名（内 公務員 1名）</p> <p>イ 意欲向上するキャリア教育を展開 ○ 「キャリア通信」を9回発行 ○ 上級学校見学会を実施し、38名の生徒が参加した。</p> <p>ウ 関係機関と連携した進路指導 ○ 地域の若者サポートステーションと連携し、校内で相談活動を実施して、複数の生徒を進路実現に結びつけた。</p>	4
<p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>落ち着いた学校生活を保障する。</p> <p>ア 安心安全な学校を作る。 ○ 生命と人権の尊重、自他のチャレンジ尊重</p> <p>イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。 ○ 校服の正しい着用、「笑顔で挨拶」の励行</p> <p>ウ きれいな学校環境を守る。 ○ 校内清掃の徹底、ゴミ分別を発展させる。</p>	<p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>ア 「稔ミニマム」を制定し、学校生活上のルールを徹底を図った。特別指導の発生件数は、5件に抑えることができた。</p> <p>イ SNSの利用について指導を徹底した結果、トラブルの発生を防ぐことができた。</p> <p>ウ きれいな学校作りとして、生徒主導によるゴミ分別制度を実施した。</p>	3
<p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア 文化祭、みのり杯等の学校行事を充実。</p> <p>イ 生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実。</p> <p>ウ 生徒の個性を引き出す部活動を活性化。</p> <p>エ 生徒の生活集団の形勢を促す。</p>	<p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア 文化祭では、来校者が前年比10%増。</p> <p>イ 生徒会や行事委員会が自発的・計画的に運営されるようになった。</p> <p>ウ 部活動参加率は38%に留まった。</p> <p>エ SHRを全クラスに導入した。</p>	5
<p>4-3 生徒指導（防災教育）</p> <p>ア 災害に備えた校内体制（防災委員会）</p> <p>イ 震災を想定した防災訓練（年4回）</p> <p>ウ 災害に対応できる備蓄（企画室、総務部）</p>	<p>4-3 生徒指導（防災教育）</p> <p>ア 携帯型防災ポケットメモを作成配布した。</p> <p>イ 震災を想定した防災訓練を年4回実施した。</p> <p>ウ 一部生徒が、地域の防災訓練に参加した。</p>	4
<p>5 保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア カウンセリング委員会を中心に相談機能（SC、みのりの場等）の連携を強化。</p> <p>イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を構築する。</p> <p>ウ 学校保健計画、学校安全計画を立案し実行。</p>	<p>5 保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア 延べ473名の生徒がSC、みのりの場を利用するなど、保健相談機能が充実した。</p> <p>イ 保健室来室者統計を毎月発行し、生徒状況を全校で把握。見える保健室づくり。</p> <p>ウ 心理系大学院生との連携組織化も安定した。</p>	3
<p>6 募集・広報活動</p> <p>ア 個別相談、学校説明会、募集要項説明会を通して受検者や保護者の学校理解を深化する。</p> <p>イ 学校PRを再構築し、応募倍率をアップする。</p> <p>ウ 学校ホームページを頻繁に更新する。</p>	<p>6 募集・広報活動</p> <p>ア 「Minor Journal」や「みのりQ&A」を作成するなど、募集対策を充実させた。</p> <p>イ 応募倍率が1.49倍に増えた（前年比0.05倍増）。</p> <p>ウ 約150回更新するとともに、内容の充実を図った（Minor Weekly、みのりQ&Aなど）。</p>	5 4

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>7 地域交流、保護者</p> <p>ア 地域小中学校、町会・地区委員会等、地域との連携を強化する。</p> <p>イ ボランティア活動を推奨し、地域と交流を推進する。</p> <p>ウ 「みのり保護者の会」の組織化を支援する。</p>	<p>7 地域交流、保護者</p> <p>ア 他府県の教委や学校、地区委員会等の来校が増え、教育活動の公開が進んだ。</p> <p>イ 延べ170名の生徒のボランティア活動に参加した。次年度にはボランティア部を発足させ、参加生徒増を目指す。</p> <p>ウ 「みのり保護者の会」の運営が軌道に乗るとともに、「卒業生の会」の発足を支援した。</p>	

次年度の課題

<ol style="list-style-type: none"> 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、生徒の授業出席率の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・72.7%であった授業出席率を80%台に向上させる。 2 必履修科目の設置を再検討し、基礎学力の向上を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度入学生から、2年次において国、数、英の必履修科目（各2単位程度）を設置する。 3 キャリア教育科目（コーピング、キャリアサクセス等）の内容を再検討し、精選を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあった体験的な学習を導入する。 ・一部のキャリア教育科目を統廃合し、普通科目に置き換える。 4 Ⅲ部生の授業選択に柔軟な対応をとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・昼からの授業選択を可能にし、夜間部のイメージを払拭する。 5 施設・設備の充実を通じて、生徒の居場所づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・HR教室がないことから、授業の空き時間等の生徒の居場所づくりが急務である。 5 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有を進める。 <ul style="list-style-type: none"> ・みのりの場の利用を柔軟に運用し、長期欠席者の解消に努める。 6 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・目標 中退率5%未満、卒業者 毎年180人 ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。 ・社会体験活動による単位認定（マイレージ）の積極的な運用により、単位修得の機会を増やす。 7 校内研修を充実させ、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・不急な校内研修を割愛し、指導の改善に直結する校内研修を精選して実施する。 8 大規模な地震への対策として、防災ポケットメモの活用など、防災教育を充実する。 9 みのり保護者の会、卒業生の会と連携して開校10周年記念式典を実施する。
